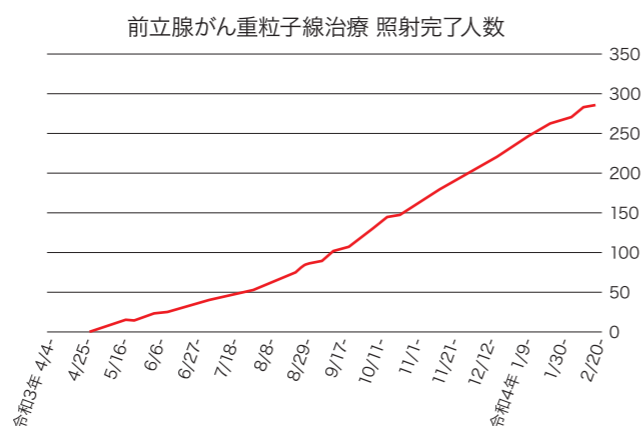


➤ 前立腺がん 治療状況について

令和3年4月から前立腺がんに対する公的保険による重粒子線治療を開始し、令和4年3月時点で、287名の方が既に3週間の重粒子線照射を完了し、重粒子センターとご紹介いただいた医療機関ないし地域医療機関とが連携して、治療後の経過観察を行っております。

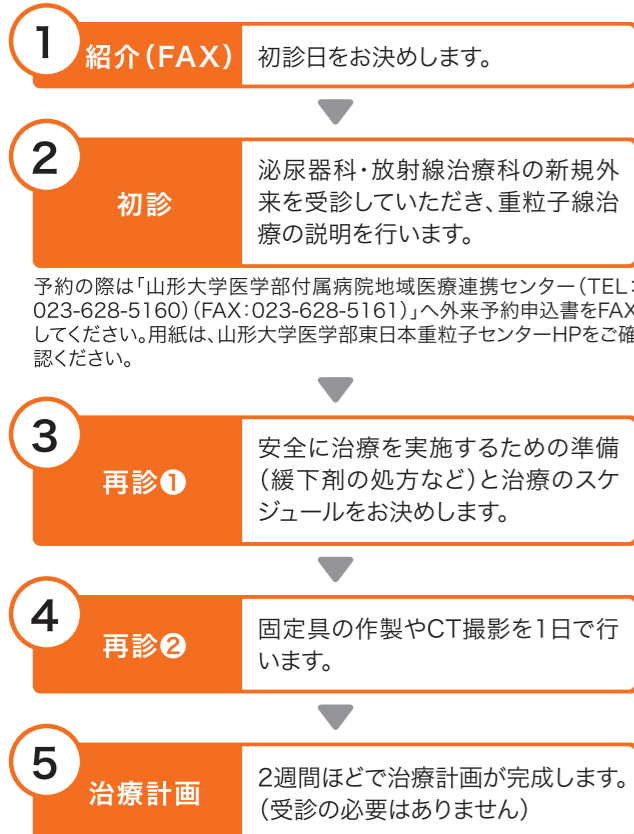
当センターの治療方針に従って、ご紹介いただいた後に、重粒子線治療に先行して数ヶ月間のホルモン療法を受けていただく場合がございます。治療方針や日程につきましては、当センターを受診された際に、詳しくご説明をさせていただきます。



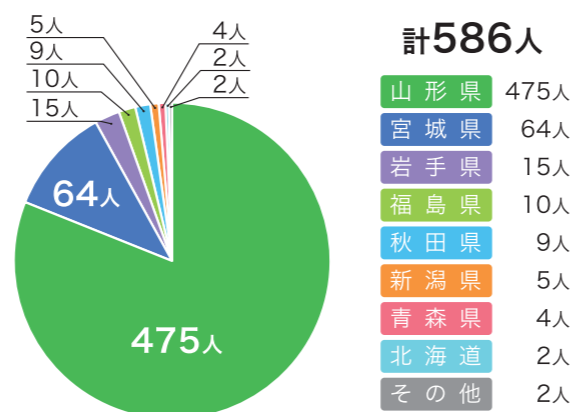
➤ 前立腺がん 治療の流れ

まずは主治医、お近くの専門医(泌尿器科)の先生にご相談ください

※地域医療機関からのご紹介による外来予約を、地域医療連携センターで行っています。



● 積算予約患者数(県別)
2020年9月から2022年2月末日時点



お問い合わせ

- 発行元 : 山形大学医学部東日本重粒子センター 山形大学医学部附属病院
- 電話 : 023-628-5404
- 住所 : 〒990-9585 山形県山形市飯田西2-2-2
- 受付時間 : 午前9時 - 午後5時(土日祝日は除く)
- URL : <http://www.id.yamagata-u.ac.jp/nhpb/>
- Eメール : heavy-ion@mws.id.yamagata-u.ac.jp



寄附のお願い

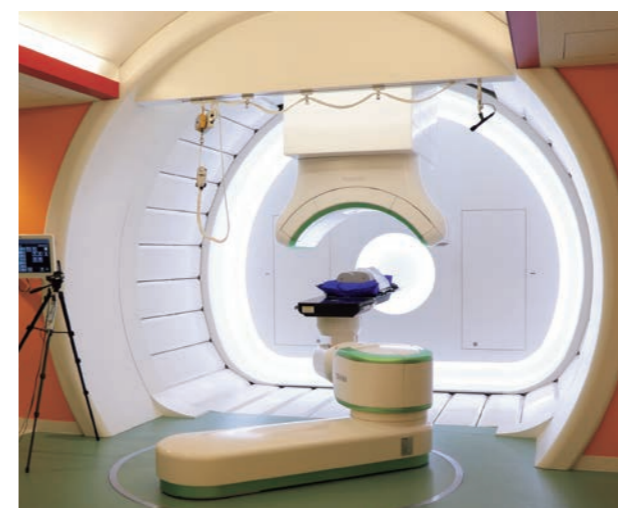
山形大学医学部では、重粒子線がん治療による福祉の向上・発展のために、寄附金の募集を行っております。税制上の優遇措置などもあります。皆さまのご理解・ご協力をお願いいたします。

● 寄附者の顕彰(1万円以上ご寄附いただいた方々を対象)
ご厚意に感謝の意を含め、ご寄附いただきました方々のご芳名を山形大学医学部東日本重粒子センターおよびホームページに承諾の上、掲載させていただきます。

詳しくはホームページでご確認ください



次世代型重粒子線がん治療装置が完成
~回転ガントリー照射装置の準備状況を公開しました~



山形大学医学部東日本重粒子センターは2022年1月17日、がん治療装置「回転ガントリー照射装置」の準備状況を公開しました。

東日本重粒子センターの特長の一つである「回転ガントリー照射装置」が昨年12月末に納入され、現在調整を実施しています。

回転ガントリー装置の納入により、予定していたすべての装置が揃いましたので、多くのがん治療へ対応していきます。

回転ガントリーでの治療開始時期については、現在治療開始に向けた準備作業を実施中であり、治療開始の目途が立った段階で随時公表して参ります。

➤ メッセージ寄稿



「東日本重粒子センターへの期待」

国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院骨軟部腫瘍科/希少がんセンター

川井 章
Kawai Akira

骨軟部腫瘍の診療に携わる医師として、切除困難な骨軟部腫瘍に対する重粒子線治療の有効性には瞠目します。特に仙骨脊索腫や骨盤骨肉腫など、切除によって大きな障害を生じることが避けられない難治性骨軟部腫瘍に対しては、重粒子線治療の根治性と低侵襲性、機能温存の可能性は大きな福音となります。

2019年には「放射線治療用吸収性組織スぺーサー」も保険収載され、腫瘍が腸管などの正常組織に近接していることが原因で重粒子線治療が困難であった患者さんにも照射が可能となりました。この日本が世界に誇る重粒子線治療に弱点があるとすれば、それは治療施設の少なさ(=患者さんの治療へのアクセスの悪さ)で

したが、「回転ガントリー照射装置」の導入によって東日本重粒子センターでもいよいよ骨軟部腫瘍や頭頸部腫瘍への本格的な照射が可能となり、東北・北海道地域に新たな治療拠点が誕生することになります。

希少がんの診療施設や重粒子線治療施設などの高度医療施設を有効に活用し、全国の患者さんにその治療を届けるためには、高度医療機関と第一線の病院、患者さんを繋ぐ信頼と情報のネットワークが重要です。東日本重粒子センターが新たな全国ネットワークの一員として、骨軟部腫瘍・希少がんの患者さんに重粒子線治療の恩恵を届け、放射線治療の新たな可能性を切り開かれることを祈念いたします。

＋ 公的医療保険の適用拡大

令和4年4月から重粒子線治療の一部が
新たに公的医療保険の対象になりました。

【公的医療保険に追加された症例】

- 大型の肝細胞がん
- 肝内胆管がん
- 局所進行膵がん
- 大腸がん骨盤内術後局所再発
- 局所進行子宮頸部腺がん

【既存の公的医療保険症例】

- 前立腺がん
- 頭頸部がん
- 骨軟部がん

※詳しい症例につきましては、まずは主治医の先生にご相談ください。

上記症例の治療費は、公的保険となり、高額療養費制度が適用されるため、実質的な負担額は収入と年齢によって決まる以下の金額が、**月ごとの自己負担上限**となります。

年収の目安 住民税非課税	実質自己負担額の目安
約370万円以下	8,000円～35,400円
約370万円～約770万円	18,000円～57,600円
約770万円～約1,160万円	約95,000円～
約1,160万円以上	約180,000円～
	約270,000円～

＋ 先進医療の治療費

先進医療が適用される
上記以外のがん

314万円

照射費用314万円は患者さん負担となりますが、**民間医療保険の先進医療特約に加入されている場合は、ご契約に応じて保険が利用できます。**

※ほかに診察・検査・投薬などの費用がかかります。

＋ 今後の治療スケジュールについて

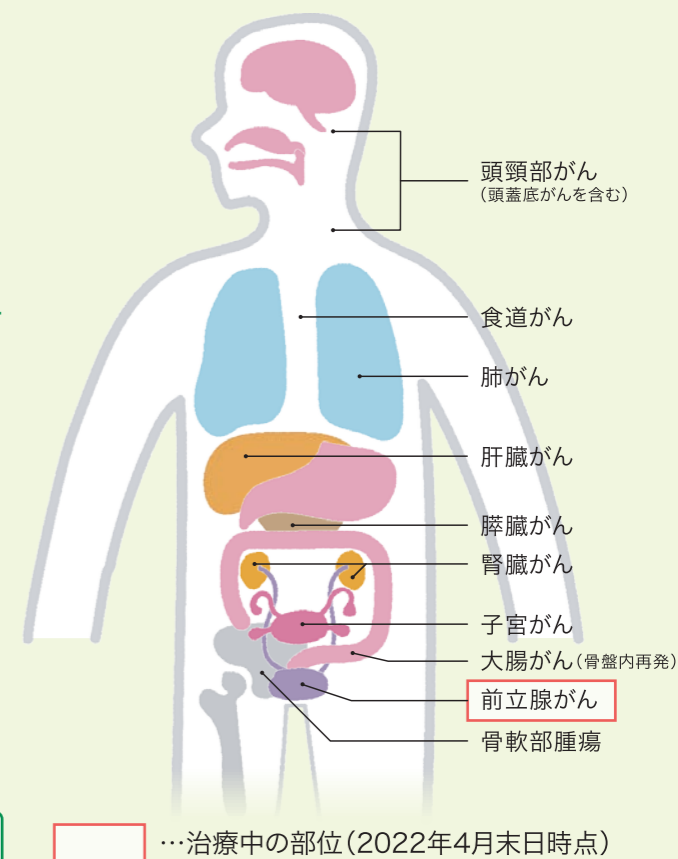
2022年春から
回転ガントリー照射装置の
運用を開始しております。

前立腺がん以外の
治療対象部位のスケジュールは、

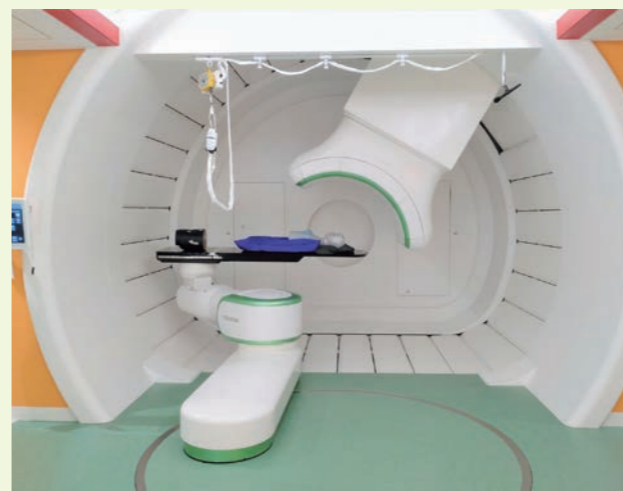
- ① 頭頸部がん
- ② 骨軟部がん・大腸がん(骨盤内再発)
・転移性リンパ節・子宮がん
- ③ 肝臓がん・膵臓がん・肺がん
・食道がん・腎臓がん

上記①から、順次、秋ごろに向けて
拡大していく予定です。

※治療開始を保障するものでございません。当院の治療開始前には、他院へ紹介する場合がございます。各部位の治療開始時期は、随時お知らせいたします。



＋ 装置のコミッショニング状況について



【人体模型を用いたコミッショニングの様子】



一般的な医療機器は、業者による調整と取り扱い説明の後、作業者が習熟すればすぐに医療に使用されます。これに対し、重粒子線治療装置のような放射線治療関連機器は、装置導入後、各病院に納入された機器特有の放射線出力の状態や寝台の位置精度など、高精度の治療に堪えられる品質が管理されていることを確認してから、

患者さんの治療に使用されます。通常数ヶ月かかるこの作業のことを「コミッショニング」と呼びます。東日本重粒子センターでは世界で3台目となる重粒子線治療用回転ガントリー照射室の治療開始に向けて、センターの医学物理スタッフが中心となってコミッショニングを実施しています。